

られ、安んずる業務に服することと出来なない情態であり、斯くして市民の足として交通機関の重要性に鑑み又サービスマンよりしても甚だ憂ふべきがあると思ふ所す。

しかして斯かる情勢を其のまゝ放置することは、我々従業員が不安のみならず、延いては市民又不安にかられることは云ふ迄もありませぬ。斯くの如き従業員と市民の不安を速に除去することとは局長の責任であると考へます。我等全従業員は職首賃下げに對しては絶對反對であり、同時に今日の不安を除き市民交通機関の安全を期するたり

一、職首は行はざること 一、本給及手當は削減せざること

以上二ヶ条に對し即時明答せられんことを右嘆願致します。

昭和九年八月二十九日

東京交通労働組合 緊急中央委員会

東京市電氣局長

山下又三郎殿

労組第一、九五九號

昭和九年九月二日

警視總監 藤沼庄平

内務大臣 後藤 文 夫 殿

社 會 局 長 官 殿

各 府 縣 長 官 殿

京都、大阪、神奈川、兵庫、愛知

東京交通労働組合ノ賃下解雇反對運動ニ関スル件

(第四報)

①組合本部八月二十九日、三十日、兩日、東京市電氣局長に開催ス

②九月三日、東京市電氣局長に東京市電氣局長に開催シ、首魁部長、他、手前組合の主張を陳述ス

要旨

其の要旨は、

③九月三十日、東京市電氣局長に、賃下解雇反対運動ニ関スル件、労働局長に開催

賃下解雇反対ノ嘆願書ヲ提出ス